

# 座間の寺院

座間の主要な寺院について、『座間の語り伝え（信仰編二版 昭和55年12月）』をもとに以下紹介いたします。

「座間の語り伝え（信仰編）」は昭和 54年の語り伝え聴き取り調査をもとにしている。初めに当時の調査団長の大沢清氏がお寺と檀家について語っていることを以下に掲載する。

信仰の対象には神の外に仏がある。神は幸福を願う信仰とすれば、仏は来世楽浄土をめざす信仰と解することが出来る。市内のお寺の縁起によると、関東の名刹星谷寺は別として、郷土の豪族・郷土の建立になるものと、住民によって建立されたもの、その他がある。例えば、心岩寺・龍源院・宗仲寺は前者に当り、後者には専福寺をあげることが出来る。

郷土史に詳しい飯島忠雄氏は、寺と檀徒の関係が生じたのは江戸初期からであって、それ以前には檀家制度はなかったという。

お寺は時の権力者の持仏堂的な性格を持ち、時代の推移と共に、やがて村持のお寺へと変わっていった。村持になっても、村民は葬儀や法要を営む時だけ、寺の和尚に頼んで供養してもらい、寺との深い係わりはなかった。ところが寺付近の住民が、寺と檀徒の関係を結ぶようになって、お寺の運営が住持と寺世話人によって行われ、その結びつきが次強くなっていった。

そのころになると、どの寺も大きな寺の末寺となって、大寺の宗派に系列化された。このようになると、お寺の盛衰は檀家の数と、檀家の質に左右される。永い間には運営が困難になって、無住で過すお寺が生れたことだろう。時には檀家の獲得に努めたお寺もあっただろう。何れにしても栄枯盛衰は世の常で、寺にも栄枯があり、檀家の側にも盛衰があった。檀徒は富める者も貧しい者も、一様に来世の極楽往生を念じ、祖先の霊を慰めるため、お寺との結縁を大切にして今日に及んでいる。



## 妙法山星谷寺 真言宗大覚寺派

### 御本尊聖観世音薩

坂東八番の札所、星の谷観音は、寺の由緒によると千二百数十年の昔、聖武天皇の御代高僧行基が、諸国教化の折にこの地に逗留され、自ら聖観音の御像を刻んで堂宇に安置されたのが、この寺の起りという。

はじめは、北東に当る谷戸の本堂山に建てられていたもので、市内にあるお寺の中では、一番古い伝統をもつお寺である。戦国時代には小田原の北条氏が、しばしばこの寺を宿舎に利用したといわれることから、非常に大きなお寺であったことが想像される。永い歳月の間には幾多の変遷があり、いつの時代か火災にあって現在の場所に移されたという。

(次ページに続く)

今、商店街で賑う大門通りは、星谷寺の参道で、皆原から一直線に星谷寺の仁王門に通じていた。この参道を利用して、明治初期から大正期にかけて草競馬が行われ、その後には、星谷寺の境内の周りを何周、何十周とまわる自転車競争が行われたというが、今は昔語りになってしまった。

また、阿吽の金剛力士一対を安置した素晴らしい仁王門があったが、惜しいことに昭和三年三月、類焼の厄に遇って消滅した。

星谷寺の梵鐘は国の重要文化財であり、市の重要文化財にも指定されている。嘉禄三年(七五二年前)近江源氏の佐々木信綱らが寄進したもので、現存する梵鐘のうち、関東では二番目に古く、鐘身の長いことや撞座が一個所しかないことが特徴とされている。

このお寺には、咲き分け散り椿（市の天然記念物）をはじめ、座間音頭に歌われている日中に星が映って見える星の井戸・不断桜・観音草等、七不思議といわれるものがある。

この外、星谷寺には豊臣秀吉制札・北条氏寄進状北条氏制札二通計四通の文書が保管され、市の重要文化財に指定されている。また、この境内にある壮大な宝篋院塔は、昨年新たに市の重要文化財に指定された。

観音堂の境内と境を異にして、持宝院というお寺がある。この寺の本堂には虚空蔵菩薩が安置されている。星谷寺がここに移ってからは、観音堂の維持管理をつかさどり、星谷寺とは不離一体の関係にあるお寺である。

(座間の語り伝え 信仰編 二版 昭和55年12月より)



星谷寺 宝篋印塔



星谷寺「嘉禄三年紀梵鐘」国指定重要文化財



## 座間山心岩寺 臨濟宗建長寺末(鎌倉市) 御本尊釈迦如来 脇立 文珠・普賢両菩薩

このお寺は、はじめ河原宿現在の西中学校の東方にあって、久光山心願寺といい、約五百三十年前の文安年間に起った相模川の洪水で、建物等は全部流失してしまったという。

水難を恐れた座間の郷土白井織部是房は、文明二年(五〇九年前)適地をここに求めて堂宇を再建し、座間山心岩寺と改め今日に至っているという。

寺には、市の重要文化財に指定されている釈迦如来立像一体と、岩城常隆供養五輪塔一基がある。木彫の釈迦如来像は気品高く優雅さの漂う立像で、五輪の塔は、小田原攻めの際豊臣方に参加した、福島県平の城主岩城常隆を埋葬した供養塔と伝えられる。

(座間の語り伝え信仰編二版 昭和55年12月より)



心岩寺 岩城常隆供養五輪塔



## 水上山龍源院 曹洞宗清源院末(厚木市)

御本尊釈迦牟尼仏

水上山龍源院には寺号がない。寺の由緒によると、桜田伝説に出て来る渋谷高間が、寛正二年(五一八年前)、富士山公園の麓丸山下に建てたものを、今から約四百二十年前若林大炊助が、この地へ移したといわれている。

このお寺には弁財天が祀ってある。蛇身の上に女神の首が乗っている、一風変わった形の弁天様である。龍源院二代の格雲この地方の人々の幸福を願い、五穀豊饒を祈念して勧請したという。約三百四十三年前のことで、裏山の洞窟の奥深いところに祀られていたが、昭和五十二年、清水の湧き出る傍に小堂を建ててそこに安置した。なお、座間小学校の前身風牛学舎が、明治五年この寺に設けられ、市内の子弟はここに学んだ。明治八年八月、大雨のため裏山が崩れ本堂などが倒潰した。この時遭難した風牛学舎の先生、中村常一氏のお墓が寺内にある。また庫裡の玄関は、昭和二十二年ごろに座間小学校の玄関を移築したもので、鶴亀の彫刻は昔のままの面影を残している。

(座間の語り伝え 信仰編 二版 昭和55年12月より)



## 休息山遠光院円教寺 日蓮宗本圀寺末

御本尊 久遠実成本師釈迦牟尼仏

寺の縁起によると、開基は鈴木弥太郎貞勝といい、日蓮上人が文永八年（708年前）法難を逃れ、依知の本間重連邸に護送される途中この鈴木家に休息された。

その折上人から円教坊の法号を賜り、深く上人に帰依して寺の建立を思い立ったという。開山は日範で護王姫の伝説にある上人である。

寺の後方に清水の湧き出ている所があって、三十番神を祀る番神堂がある。これは刀工のために日蓮上人が三十番神を勧請し、地を穿つと清水が湧き出たとの言い伝えがあり、昔、刀工がこの泉の水を用いて刀鍛冶を営んでいたという。現在円教寺が管理している。

山門を入った右側に、明治十年代から三十年代にわたって、平塚市四の宮に住み人形浄瑠璃の指導をしていて、座間で死亡した吉田三十郎の墓碑がある。寺にある紺紙金泥の法華経写経一卷と鐙一双が市の重要文化財に指定されている。写経一卷は日蓮上人が法難の折、懷中に所持していたものといい、鐙は依知の本間邸へ護送される時に、乗った馬の鐙だといひ伝えられている。

（座間の語り伝え 信仰編 二版 昭和55年12月より）



## 来迎山峯月院宗仲寺 浄土宗大長寺末

### 御本尊 阿弥陀如来 脇土観音・勢至両菩薩

遠い平安の昔、良真法師が一字の堂を建てたのがこの寺のはじめといい、その後幾多の変遷をたどったというけれども、記録がないので判然しない。

現在のお寺は、慶長年間約三百六十余年前、当時のこの地方の領主、内藤清成が実父の竹田宗仲のために創建したという。

内藤清成は徳川家康の信任が厚く、内藤新宿一東京の新宿一に屋敷地を拝領し、関東総奉行に栄進した人で、本堂の裏手に清成らのお墓がある。開山は源栄といいこれまた家康の知遇を受けた方であった。家康が平塚あたりに鷹狩に来た折には立寄られたと言われ、家康の遺骨が、駿府の久能山から日光に移された時には、一行がこの寺に立寄り休憩された。

このお寺では、大正九年の時の記念日から梵鐘を撞いて、時を知らせたので、畑で作業している農家から大変感謝されたという。昭和十六年、戦争で国の金属類が極度に欠乏した時、梵鐘も供出させられたので、借しいことに「時の鐘」は中絶してしまった。寺宝のうち、市の重要文化財に指定されているものに、六字名号碑一基と、蜻蛉灯籠一基がある。どちらも無言の中に永い間の歴を物語っている。昭和五十年、浄土宗開宗八百年を記念し、立派な本堂が改築された。

(座間の語り伝え 信仰編二版 昭和55年12月より)



宗仲寺 六字名号碑



## 永照山三昧院専念寺 浄土宗鎮西派

大善寺末(八王子市) 御本尊阿弥陀如来 脇土 観音・勢至丸両菩薩

由緒によると、このお寺の創建は慶長八年(376年前)で、開基は宮代甚助、開山は念譽存貞といわれる。古い記録は安政五年の火災で失われたので、詳しいことは判然しない。この境内に稲荷堂がある。「かさもり稲荷」といって稲倉魂命を祀り、当山十三代の住職が安永二年(206年前)に勧請し、この寺の鎮守にされたという。女性の髪の毛をこの稲荷様に供えて拝めば、性病が癒ると信じられ、瘡守稲荷と呼ばれた。もっとも江戸時代既にこの種の稲荷が、江戸の各所に建てられていたというから、それが伝わってこの稲荷堂が出来たのであろう。

稲荷様は本来が稲の守護神で、震災後再建されたこの稲荷堂は、新田地区の総鎮守稲荷として崇められている。

(座間の語り伝え 信仰編 二版 昭和55年12月より)



## 心光山往生院浄土寺 浄土宗鎮西派

大善寺末(八王子市)

御本尊 阿弥陀如来 脇士観音・勢至両菩薩

寺の由緒には、元亀年中(約400年前)に創立、開山は願譽聞悦、天正七年九月寂と記されている。お寺は始め、四ッ谷の三家の西側にあったが、洪水のため流されて現在地に建立されたという。このお寺も215年前の宝暦十三年(1763)に類焼の厄に遭い、八年後の明和八年(1771)に本堂庫裡を再建したという。

ここでは、市内で最も早く寺小屋を開いて、子弟を教育したといわれる、師匠の保田安兵衛(鳥取県出身)の墓碑が建てられている。

(座間の語り伝え 信仰編二版 昭和55年12月および座間市史5 通史編(上)第七章第三節市内の神社<sup>14</sup> 平成22年3月より)



浄土寺 保田安兵衛供養塔



## 栗原山崇福寺 臨濟宗建長寺派 御本尊 釈迦如来

言い伝えによると、戦国時代甲斐の国からこの地に移り住んだ甲子太郎右衛門が、開基という。二回程火災に遭い、古い記録等が焼失したので詳しいことは判然しない。昭和五十三年、建長寺の管長、湊素堂師を招き、宗派の関係者檀徒等百六十余名が参列して、開山四百五十年祭が厳かに、しかも、盛大に催された。

山門の右脇にある、愛児を抱きしめている母親の姿を彫った「子育て地蔵」は、母子の情愛を切々と訴えている。  
(座間の語り伝え 信仰編二版 昭和55年12月より)



## 法林山専福寺 浄土真宗 高田派専修寺末 (三重県一身田) 御本尊 阿弥陀如来

聞くところによると村人が三浦にあった廃寺の寺号を引いて、専福寺を建立したという。

開基は了山で、文禄二年(386年前)遷化されている。当初は真言宗に所属していたが、第六世了儀の代に真宗高田派に宗派を変え、現在に及んでいるという。

お寺の門標に、座間市教育史跡と書いてある。これは明治十二年に、この寺の境内に洋風二階建の栗原学校が開設され、72年間にわたり、栗原地区の数千の子弟がここに学んだ跡で、年輩の人々にとっては、幼いころの幾多の思い出のあるお寺である。

(座間の語り伝え 信仰編二版 昭和55年12月より)

# 座間の寺社

完